

特定非営利活動法人
大阪自然史センター

活 動 報 告

2001 - 2005



NPO法人大阪自然史センターの活動

自然を見つめ、自然を学ぶ楽しさを伝えるNPO法人大阪自然史センターは、大阪市立自然史博物館と協力し、自然史科学の発展と普及に取り組んでいます。



大阪市立自然史博物館友の会

子どもも楽しい おとなも楽しい

博物館を積極的に利用して、自然と親しみ、学習しようとする人々に対して、情報提供等を行うため、「大阪市立自然史博物館友の会」事業を実施しています。会員約1700世帯（2005年）が参加し、各種の観察会プログラムなどを通して大阪周辺の自然を学んでいます。また、通巻600号を越える月刊誌Nature Studyを発行しています。

自然史博物館学芸員は普及活動の一環として、友の会の普及指導に当たっています。

◆友の会会員数 ※一人が入会すると、その家族全員が会員扱いとなるので実質的に、会員数は世帯数を表す。



会報Nature Studyの発行

Nature Studyは毎月発行の12～16ページの小冊子です。友の会会員や学芸員による自然に関する解説や報告、行事の報告、本の紹介、行事案内と内容は盛りだくさんです。

プロジェクトY

2002年から活動をしている大和川水系の水質や生物の調査プロジェクトです。観察会のほか、研修やまとめの会を交えて、分担して様々な調査を実施しています。2006年にいったん調査を終えますが、引き続き新たな調査プロジェクトを立ち上げて、活動を続けていきます。

各種の行事

◆年間行事数

2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
18回	23回	21回	29回	39回

▶ セミの抜け殻調べ

毎年9月に恒例のセミの抜け殻調べは、10年以上続いていて、毎年のセミの発生量についてのデータを蓄積しています。

セミの抜け殻調べ ▶

毎年、鞆公園内のセミの抜け殻を数えます。イベント的に行われるので子供たちにも楽しんで参加してもらえ、しかも調査に大変役立っています。この調査で、セミの発生数に周期があることがわかってきました。



▶ 月例ハイキング

毎月1回、さまざまな場所に行つて自然を観察したり、楽しい企画が盛りだくさんです。2005年度には、3月に海岸で採集した海藻の試食をしたり、7月にシイ林のキノコやコケを観察しに行ったり、夜の奈良へ鳴く虫の声を聞きに行ったり、和歌山県友ヶ島ヘリスやシカの観察に行きました。



月例ハイキング ▲

▶ 友の会の合宿

毎年1～数回の合宿を実施しており、北海道など遠方に出かけることもあります。

2001年 6月／昆虫採集入門講座「音水」 8月／友の会合宿「対馬」
 2002年 4月／干潟合宿「櫛田川河口」5月／昆虫採集入門講座中級編「美方高原」
 7月／友の会合宿「美方高原」10月／スケッチ合宿「浜坂」
 5月／干潟合宿「周防灘」 昆虫採集入門講座「男山」
 2003年 7月／友の会合宿「有峰湖」11月／スケッチ合宿「美山」
 7月／昆虫採集入門講座初級編「紀見峠」 友の会合宿「朽木村」
 2004年 6月／プロジェクトY「石川源流合宿」7月／友の会合宿「奥熊野」
 2005年 8月／友の会合宿「北海道厚岸」

▶ 総会

会員の発表や招待講演のほか、バザーやコンテストなどさまざまな企画があります。

◆友の会総会の招待講演

2001年「対馬の生物」池崎善博氏（長崎女子短期大学）
 2002年「クワガタムシの魅力徹底追求」荒谷邦雄氏（九州大学比較社会文化研究科）
 2003年「周防灘から遠く離れて」福田宏氏（岡山大学農学部）
 2004年「私が写真で訴えたかった事ーキノコからウンコへ」伊沢正名氏（写真家）
 2005年「40年にわたる野鳥研究を振り返って」中村浩志氏（信州大学教育学部）

友の会総会 ▶

Tシャツコンテストの表彰式。会員が考えたTシャツの図柄を発表します。デザイン性だけでなく、マニアックさやリアルさに感心を寄せるのは友の会ならではの。



▶ ビオトープ作り

博物館裏にビオトープを作り、隔月で生き物観察や、田畑で耕作を行っています。



▲（左）作りたての池と（右）育ってきた池

自然に生物が棲みつくのを観察したり、理想の池を作るにはどうしたらいいか考えたり、田畑や池の整備をします。

ボランティア事業

ボランティアを通じてより深く学ぼう！

博物館行事の補助スタッフという形で、友の会会員を対象にボランティア事業を実施しています。同時に行事の企画・運営についてのノウハウを学び、あるいは自然についてのより詳しい知識を得てもらうことを目的にしています。行事の前には必ず研修があり、この研修の場は、学芸員の詳しい解説を聞くことができる大切な機会になっています。

◆補助スタッフ年間のべ人数

年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年
のべ人数	240人	318人	188人	172人	214人
行事数	42回	61回	43回	48回	48回

普及教育事業

のべ約6万人が体験

学校教育現場と博物館の連携促進、博物館友の会のネットワークづくりなどの事業を展開しています。学習プログラムは学芸員など博物館スタッフとの緊密な連携で実施されています。ホームページを活用した学習プログラムの作成なども積極的に進めています。また、文部科学省「子どもの居場所」事業に関連し、子どもと一緒に博物館を楽しむワークショップの企画など、自然史センターの普及教育活動は自然史博物館を大きく活性化しています。

普及教育事業 ― ① 大阪自然史フェスティバル

大阪周辺の自然に関わる様々な団体があつまり、大阪の自然のおもしろさ、活動の楽しさを伝える場として、「自然派市民の文化祭」をテーマに開催しました。NPO主催の同種イベントとしては国内最大級のフェスティバルに成長しました。（自然史博物館などとの共催により実施）

自然史センターは事務局・各種デザイン・PRを担い、「博物館を自然に関わる人たちのプラットフォームに、自然に関わる情報の行き交う交差点」にするために、地域と博物館を結びコーディネーターとして活動しています。



▲ 各ブースにはそれぞれの団体の思いのこもった展示が繰り広げられています。回を重ねるごとに、展示だけでなく来場者が楽しめるゲームやイベントなど工夫する団体も増えてきました。

▼ 参加団体は、アマチュアの研究者や、自然保護に取り組む団体と多様。違ったジャンルの団体の交流も目的の一つです。新たな興味を見つけるきっかけにもなります。



◆実績

年	出展団体	のべ来場者数	開催期間
2003年	85団体	20,000人	3日間
2004年	81団体	15,000人	2日間
2006年	83団体	21,000人	2日間



普及教育事業 ― ② 「子どもの居場所づくり」事業の支援

文部科学省が2004年より3カ年計画で進めている「子どもの居場所づくり」事業において、博物館が、子どもたちが安心して遊び・学び・過ごせる場所になることを目指し、4つの事業を展開しました。

ジュニア自然史クラブ

中高生対象の自然史科学サークル。博物館の学芸員とともに野外や屋内で自然を観察し、博物館の器具や資料を使って、好きな研究を行います。サークルでは学校の枠を超えた仲間作りもできます。自然史センタースタッフがサークル活動の補助を行います。



▲ 学校だけでは出会えない同じことに興味のある仲間が集まる。

ビオトープ作り

博物館のバックヤードで実施。重機や高額な資材を使わず、その場所が持っている生物資源をいかし、親子で参加できる活動として、ビオトープ作りを進めています。自然史センタースタッフが補助を行っています。

探検ワークシート

展示物を見ながら答えるスクラッチ式のクイズ。スタッフによる導入によってテーマを設定し、参加者に絵を描いてもらいます。クイズシートを使ったプログラムの企画・作成・実施を自然史センタースタッフが担当。



▲ 土日用のワークシート
裏には自由に絵が描けるようになっています。



▲ スタッフによる導入の様子 ▲

マンスリーワークショップ

展示物をもっと深く見つめるためにファシリテータと学芸員が協力して行うワークショップ。プログラムの計画・準備・実施を自然史センタースタッフが担当。



▲ 左から「くねくねタコ・イカ」2005年5月実施／「のぞいてみよう ミクロの世界」2005年7～9月実施／「大阪の海で何がとれる？」2005年12月実施

最初にテーマとなる部分を紙芝居などを使って楽しく説明し、後で思ったことを工作や塗り絵で表現してもらいます。出来上がった物をお土産に持って帰れる時もあります。日頃のちょっとした疑問を、直接学芸員に聞けるチャンス。

普及教育事業 ― ③ 学校教育支援

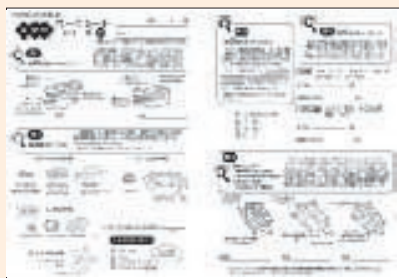
学校教育への博物館の利用を促進し、博物館と共同で新たなサービスを開拓するため、2001年度から教育スタッフを配置しています。学校への博物館活用の提案や、博物館でのミニレクチャーなどのコーディネート、教材の開発等を行っています。

博物館見学の下見ガイダンス

教職員向け研修（2001年より開始）

教材開発

- ・見学用ワークシート（小学校低学年用、高学年用、中学生用）
- ・博物館マップ（小学校低学年用、高学年用）
- ・セミの抜け殻調べ
- ・どんぐり
- ・河原の石
（以上、科学系博物館教育機能活用事業社会教育施設21世紀プランにより開発）
- ・学校のコケ（大阪府環境農林水産部との共同事業）



◀ 見学用ワークシート
中学生用

答えは展示を見ていくとわかるようになっています。ただ眺めるだけではなく、興味を持って展示を見るためのヒントになります。小学校低学年用、高学年用とレベルに合わせたシートを開発しました。

普及教育事業 ― ④ デジタルミュージアム

自然史博物館の持つ自然科学そして環境管理上重要な情報を学芸員と協力してデジタル化してきました。さらに、これらのデータをもとに、子ども向けの学習コンテンツや市民が自然を学習するためのバーチャル企画展などを制作しています。

自然史科学や博物館活動に関わる公共性・公益性の高いホームページ制作なども受注しています。

自然史情報のデジタルデータ作成

（2001～2004年度、雇用創出事業）

大阪市立自然史博物館WEBサイト

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

大阪市博物館ポータル（大阪市芸術拠点形成事業実行委員会）

<http://www.museum.city.osaka.jp/>



ミュージアムサービス事業

自然好きにお薦めの豊富な品ぞろえ

自然史科学の普及をコンセプトに、書籍、観察・採集用具、グッズの3本柱で、商品展開をしています。自然史関連の書籍については、大型の書店にも負けない品揃えです。また、通常の流通にはのらないサークルなどの自費出版の本も多数取り扱っています。



▲ 一般書店では入手しづらい自然関連書の品揃えは豊富。特別展などに合わせたコーナーなども企画します。



▲ オリジナルグッズにも力を入れています。観察に役立つものや人気のオリジナルTシャツなど。

出版事業

自然を紹介したオリジナルな本を出版

大阪を中心に近畿地方の自然を紹介するなど、他では見られない自然史関連出版物を発行しています。大阪市立自然史博物館で絶版になった本の再刊にも力を入れています。2004年には、出版社としてISBN登録を行い、『近畿地方植物誌』（ISBN4-902883-00-7）以降には、ISBNが付くようになっています。

◆主な出版書籍 ※は、絶版になった博物館出版物の再刊

2001年	『自然観察地図 北大阪編』『自然観察地図 南大阪編』 『QandA 大阪のしぜん』※
2003年	『大阪湾磯の貝』※ 『実物日本鳥の巣図鑑』※
2004年	『化石からたどる植物の進化』※ 『干潟に棲む動物たち』※ 『近畿地方植物誌』 『「学校」・「地域」と自然史博物館』
2005年	『大阪のテントウムシ』※ 『スズメバチとアシナガバチ』※ 『自然観察地図1 北近畿編』『自然観察地図2 南近畿編』

調査研究事業

社会への還元を見すえた調査を実施

大阪自然史センターでは、自然科学の振興と普及という目的に合致し、事業目的や成果が「公共性」・「公益性」を持つ調査研究事業を受託しています。友の会で育ち、大阪周辺の自然に造詣の深いスタッフによる調査が可能だけでなく、依頼者と協働しての成果の公表も可能です。原則として得られた標本・資料は標本として整備の上、博物館に寄贈し、将来に残すことを心がけています。特に研究者が支援した市民参画による調査事業など、NPOならではの展開も可能です。詳しくは事務局へご相談下さい。

NPO法人大阪自然史センターの概要

理事長 千地万造 （京都橘女子大学名誉教授）
理事 道盛正樹 ほか9名
監事1名
大阪府による認証 2001年9月14日

●設立目的

「本法人は、広く自然史科学の発展と普及にとり組み、大阪市立自然史博物館(以下、「博物館」と略す)の事業の進展に寄与することを通して、市民の自然に対する理解を深めることを目的とする。」（定款3条より）と定められ、社会教育の推進を図る活動、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動、環境の保全を図る活動などを行っています。

●大阪市立自然史博物館友の会からの歩み

- 1955.5 「大阪市立自然科学博物館後援会」設立
- 1958.3 「大阪自然科学研究会」に名称変更
- 1974.7 「大阪市立自然史博物館友の会」に名称変更
- 1998～ NPO化検討開始
- 2001.4 花と緑と自然の情報センター内にミュージアムショップ開設
NPO法人設立申請
- 2001.9 NPO法人大阪自然史センター認証
- 2002.1 友の会がNPO法人大阪自然史センターの事業の一部になる

●設立経緯

1955年より約50年の歴史を持つ大阪市立自然史博物館友の会は、市民が自然をじっくり学べる場として発展してきました。特定非営利活動推進法の成立を受け、法人化を検討、2001年に大阪府より認証されました。自然史博物館に対する期待・社会的要請が高まり、多様化しているのを受け、今後さらに自然に対する市民の関心を高め、自然環境の保全に貢献していくためにNPOとして設立したものです。

NPO化により、これまで単なる任意団体に過ぎなかった大阪市立自然史博物館友の会が社会的な信用を高める事ができました。他の事業についても、広範な市民と自然史博物館が連携するための拠り所が形成されています。現在では、大阪周辺の自然系市民団体が一堂に会する「大阪自然史フェスティバル」など広範な市民団体との連携の構築に成功する一方、大阪市・大阪府・文部科学省・環境省などと連携した事業展開を行っています。

大阪市立自然史博物館とは協力協定書を締結しています。

自然史センター・自然史博物館協力協定書（抄）

第1条（総則）

特定非営利活動法人大阪自然史センター（以下センターと略す）と大阪市立自然史博物館（以下博物館と略す）は、博物館を拠点とした市民の学習・交流活動の推進と博物館事業の高度化・充実のため、相互理解・相互尊重のもとに緊密に連携し、協力し合うものとする。

第3条（センターの支援協力）

センターは、博物館の社会的使命を理解し、その目的がより効果的に達成されるよう、必要な事業を自ら企画し、博物館との連携の下に実施する。

第4条（博物館の支援協力）

博物館は、センターが実施する事業について把握し、必要に応じて助言・協力するとともに、博物館施設における活動の機会を積極的に提供し、支援に努める。

第5条（協働事業の実施）

センターと博物館双方は、連携の効果が期待できる事業について密接に協議し、それらを協働で企画・実施する。

主な受託事業（年度は相手方の契約年度）

◆委託事業

<大阪市関係>

2001-2005年度

- 博物館出版物販売事業（大阪市立自然史博物館）
博物館出版物のミュージアムショップでの販売と通信販売。
- ボランティア事業（大阪市教育委員会）
行事の補助スタッフの育成と、博物館行事のサポート。

2005年度

- 館蔵品整理事業（大阪市立自然史博物館）
博物館が受け入れた土井鳥類コレクションの整理。
- 恐竜博2005事務局業務委託（恐竜博2005実行委員会）
博物館の特別展「恐竜博2005」の事務局業務のサポート。
- 芸術拠点形成事業（芸術拠点形成事業実行委員会）
博物館ポータルサイトの改良業務など。
- 長居植物園自然学習探検ワークシート製作委託（長居植物園）
長居植物園の探検ワークシートのデザイン・作成。

<省庁関係>

2001-2004年度

- 雇用創出事業（文部科学省）
博物館所蔵標本のデータベース化、公開サイトの構築。

2002-2003年度

- 学習ネットワーク推進事業（文部科学省）
大阪自然史フェスティバル開催、学校教育との連携事業、ジュニア自然史クラブやピオトープなどの普及行事の実施。

2004-2005年度

- 社会教育活性化プラン21世紀事業（文部科学省）
大阪自然史フェスティバルと友の会サミットの開催、学校教育との連携事業、ジュニア自然史クラブやピオトープなどの普及行事の実施。

<大阪市以外の地方公共団体>

2003-2004年度

- 河内長野市天然記念物調査事業（河内長野市）
河内長野市の炭酸泉の調査。

2004年度

- 「身近な自然を知ろう！育てよう」協働事業（大阪府）
コケガイドの作成。

<その他>

2005年度

- 西大台蘚苔類調査事業（環境省）
樹木着生蘚苔類の現状調査及び文献データ調査。
- 待兼山修学館所蔵標本同定業務委託（大阪大学総合学術博物館）
大阪大学が待兼山修学館に所蔵する標本の同定作業。

◆助成金

2003年度

- 河川整備基金（河川環境管理財団）
市民参加の河川調査の実施。

2004-2005年度

- 河川整備基金（河川環境管理財団）
大和川の自然を普及するビデオの作成。

2004年度

- 教育普及事業（大阪コミュニティ財団）
自然啓発教材キットの開発、ノウハウ提供。

ご相談ください

出版

自然科学の普及・発展の上で意義のある本を発行します。通常の出版社では出版できずにいる適当な企画があれば、ご相談下さい。

デザイン・ホームページ作成

自然に関係するデザインやホームページの構築などの依頼を受け付けています。気軽にご相談下さい。

サークルの運営相談

自然関連のサークル・団体の運営のサポートをしています。とくに人材面での不足を補いたいサークル・団体の方、気軽にご相談下さい。

出版物の委託販売

ミュージアムショップでは、普通の書店では扱われていない自然史関連の本を積極的に販売しています。サークルや団体で出版した本を売りたいという希望があれば、気軽にご相談下さい。

友の会会報などへの 広告掲載

自然好きを中心に、毎月2100部発行、約1700世帯に読まれています。詳細は下記までご連絡下さい。

ご支援ください

さらに充実した活動を積極的に展開していくには、資金が不足しています。私たちの活動に賛同いただける個人や団体・企業の寄付や支援を募っています。ぜひよろしくお願いします。

特定事業へのスポンサーまたは事業委託

下記までご連絡下さい。

寄付

大阪自然史センター（下記連絡先）へお申出下さい。
特定事業への寄付を希望の場合は、その旨お知らせ下さい。
振り込む際、通信欄に「大阪自然史センターへの寄付」と明記下さい。

郵便振替口座
00980-1-317961
大阪自然史センター

銀行振替口座
近畿大阪銀行 長居支店
普通 0524460
特定非営利活動法人 大阪自然史センター
チジ マンゾウ
理事長 千地 万造

友の会への入会

会費

種別	期間	会費	受付期間
一年会員	1～12月	3,000円	年中受付
4月会員	4～12月	2,250円	3月10日から
半年会員	7～12月	1,500円	6～12月
10月会員	10～12月	750円	9月10日から
賛助会員	1～12月	一口10,000円	年中受付 ※何口でも受け付けます

郵便振替口座
00930-4-8576
大阪市立自然史博物館友の会

詳しくはホームページや博物館内ミュージアムサービスセンターにお問合せ下さい。

特定非営利活動法人 大阪自然史センター

<http://www.omnh.net/npo/>

〒546-0034

大阪府大阪市東住吉区長居公園1-23 大阪市立自然史博物館内

TEL 06-6697-6262 FAX 06-6697-6306

E-mail center@mus-nh.city.osaka.jp

2005年度決算の概要

収支計算書 2005年度決算 2005年12月31日現在

収入の部		
大科目	中科目	決算
会費収入		40,000
事業収入		
	友の会事業収入	5,352,956
	ミュージアムサービス事業収入	36,334,799
補助金等収入		
	ボランティア事業受託収入	2,113,000
	デジタルミュージアム事業	17,425,000
	社会教育活性化プラン21世紀事業受託収入	3,981,680
	普及教育事業受託費	1,249,500
	調査研究事業受託費	150,000
	博物館出版物販売受託収入	447,525
寄付金収入		724,622
助成金収入		430,000
雑収入		2,063,101
繰入金		2,000,000
前期繰越		177,404
収入合計		72,489,587

支出の部		
大科目	中科目	決算
友の会事業費		6,763,575
ボランティア事業費		223,380
デジタルミュージアム事業費		15,560,000
社会教育活性化プラン21世紀事業費		3,981,683
普及教育事業費		1,249,500
ミュージアムサービス事業費		22,556,439
出版事業費		5,083,050
管理費		
	人件費	14,087,555
	旅費交通費	100,330
	通信運搬費	157,299
	消耗品費	888,816
	保険料	106,940
	租税公課	1,066,010
	雑費	75,632
	備品費	390,400
次期繰越		198,978
支出合計		72,489,587

貸借対照表
NPO大阪自然史センター

資産の部	
流動資産	24,581,286
現金・預金	13,612,900
仮払金	4,679,864
棚卸資産	6,288,522
固定資産	297,367
資産合計	24,878,653
負債及び正味財産の部	
流動負債	12,636,752
預り金	12,630,892
その他	5,860
固定負債	3,230,947
退職給付引当金	2,730,947
減価償却引当金	500,000
負債合計	15,867,699
前期繰越正味財産	10,661,391
当期正味財産増加額	-1,650,437
正味財産合計	9,010,954
負債・正味財産合計	24,878,653

さらに充実した活動をするために・・・



子ども向けワークショップの充実

現在、夏休み以外は、月に2回のペースでの開催にとどまっています。将来は、すべての土日・祝日にさまざまな子ども向けのワークショップを開催し、すべての週末や祝日に子どもたちが楽しめるような博物館にしたいと思います。



デジタルミュージアム事業の拡充

これまでは公共団体からの委託を受けて、ホームページ・データベースの構築や、デザインワークを行ってきました。今後は、より広く自然科学の普及・発展に寄与するようなデザインワークやホームページの構築などを手がけていきます。



ボランティア事業の拡充

今までは、補助スタッフとして博物館行事のみに限ったボランティア事業を展開してきました。これをさらに充実させるとともに、博物館の調査研究活動、資料収集保管活動、展示活動にも積極的に関わっていきたいと考えています。



地域への理科教育・環境学習機会の提供

平日を中心に、博物館などを舞台に、自然科学についての学びの場を提供する事業を展開したいと考えています。とくに放課後の地域の子供達に、遊びを通じて楽しく学べる場を作りたいと計画中です。



自然史関連サークル・団体の支援

自然関連団体の中には、人材面の不足のために運営に支障をきたしている場合が少なくありません。そこで、サークルや団体に運営ノウハウを提供したり、事務局機能の一部を肩代わりするなどして、サークルや団体の運営を支えていきたいと考えています。

他にも、さまざまな新規事業や事業の充実を図りたいと考えています。